

外国につながる市民との コミュニケーションを支える 千葉市地域日本語教育推進

2026

～5か年とこれから～

3月11日(水) 10:00-14:30
(受付開始 9:30-)

会場：千葉市役所 1階 正庁
(千葉市中央区千葉港1-1)

先着
100人
参加無料

千葉市には多様な言語・文化の背景を持つ市民が暮らしています。すべての市民が安全・安心に暮らし、能力を発揮し合うためには、円滑なコミュニケーションと相互理解が欠かせません。千葉市地域日本語教育推進事業では、5年間で日本語によるコミュニケーションを支えるためのさまざまな取組を実施してきました。

しかし、AIが発達した今、言語を学ばなくても生活で困らないことが確実に増えつつあります。多様な価値観を持つ人々が理解しあう地域社会をめざすとき、「ことば」や「コミュニケーション」の価値はどこにあるのでしょうか。本シンポジウムでは5年間の事業をふりかえり、「これから」を来場者とともに考えます。

第1部 事業報告・講演・パネルトーク 10:00-13:00

基調講演『これからの地域社会を支える日本語教育』

神吉 宇一 氏

武蔵野大学グローバル学部教授。専門は日本語教育政策、地域日本語教育。小学校教員ほか、さまざまな職を経て2013年から大学教員に。元日本語教育学会副会長、元文化審議会国語分科会委員、その他国や自治体の委員等実績多数。主な著書『日本語学習は本当に必要か』（2024年明石書店）、『一歩進んだ日本語教育概論』（2024年大阪大学出版会）等。



お申込みはこちら
申込締切 3/9 月



<https://forms.office.com/r/GjsQgB8sA9>

パネルトーク

パネリストがそれぞれの立場から地域日本語教育の意義やあり方を語ります。
モデレーター 神吉 宇一 氏

(50音順)

玄 香花 氏
外国人市民

千葉市在住。中国出身。12年前に来日。幼児(6歳)と小学生(10歳)の子育てをしながら生活する外国人市民として、地域日本語教育推進事業や日本語学習プログラムづくりに関わり、生活者の視点から提案を行っている。

徳永 あかね 氏
神田外語大学 教授

専門は日本語教育。大学で日本語教員養成課程を担当。日本語教室や日本語学校での学習者との関わりを授業に取り入れるなど、地域日本語教育と大学教育をつなぐ実践を試みている。「日本語交流つなぎで講座」講師。

新倉 涼子 氏
千葉大学 名誉教授

専門は異文化間心理学・発達心理学。言語・文化的多様性をもつ子どもを支える学校支援に従事。政策と教育の両面から地域の異文化間教育を推進し、実践型インターカルチュラル教育の開発を通して多言語・多文化に対応できる人材育成を行う。

堀 康二 氏
ベイタウン日本語教室 代表

美浜区にある「ベイタウン日本語教室」代表兼世話役。日本語ボランティアと学習希望者のマッチング等、運営及び窓口を担う。地域住民が主催・参加する地域の日本語教室の役割や意義はどこにあるか、考えながら運営に当たっている。

寺井 隆
千葉市市民局
国際交流課 課長

萬浪 絵理
千葉市地域日本語
教育推進事業
総括コーディネーター

第2部 情報交換会 13:30-14:30

テーマ「もっと話そう！これからのこと」 属性別グループに分かれて、情報交換・意見交換を行います。

お問合せ 電話：043-306-1034 メール：nihongo@ccia-chiba.or.jp (公財) 千葉市国際交流協会
主催：千葉市 受託団体：公益財団法人千葉市国際交流協会
文部科学省令和7年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用